

WEEKLY SIGNAL

平成28年9月23日(金) 1342号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/26(月)	9/27(火)	9/28(水)	9/29(木)	9/30(金)
無担保O/N			△0.086%	~	0.001%
銀行券	+ 800	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	+ 2,300	△ 5,000	△ 11,000	△ 4,000	+ 2,000
資金需給	余 3,100	不 5,000	不 11,000	不 4,000	余 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		財投貸付回収	国債発行(40年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,000 CP等買入 △ 600 社債等買入 △ 100 国債補完 + 1,500				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,400 社債等買入 + 1,300 ETF買入 + 100	短国買入 + 7,500			
(日本)	黒田日銀総裁講演(大阪市内) 資金循環統計(4-6月速報) 景気動向指数	企業向けサービス価格指数(8月)	工作機械受注(7月確報)	黒田日銀総裁挨拶(経団連会館) 商業動態統計(8月)	金融政策決定会合の主な意見(9月20、21日分) 消費者物価指数(CPI全国8月、東京都区部9月) 完全失業率(8月) 家計調査(8月) 有効求人倍率(8月) 鉱工業生産指数(8月) 日銀当座預金増減要因と金融調節(9月実績速報)
(海外)	米 大統領選、民主・共和党候補の第1回討論会(NY) 米 新築住宅販売(8月) 欧 ドラギECB総裁、欧州会議で証言	米 消費者信頼感指数(9月)	米 イェレンFRB議長、下院で証言 米 セントルイス連銀総裁講演 米 グラブランド連銀総裁講演 米 カンザスシティ連銀総裁講演 米 耐久財受注(8月)	米 GDP(4-6月、確定値) 米 イェレンFRB議長講演 米 パウエルFRB理事講演 米 卸売在庫(8月) 米 新規失業保険申請件数 米 中古住宅販売成約指数(8月) 欧 ユーロ圏景況感指数(9月)	米 個人支出・所得(8月) 米 シカゴ製造業景況感指数(9月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数(9月、確報) 英 GDP(4-6月、確定値) 欧 ユーロ圏失業率(8月) 欧 ユーロ圏消費者物価指数(9月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.06 ~ 0.001

<インターバンク>

当座預金残高は週初、国債の大量償還を主因に先週末比2兆9,100億円増加し、309兆6,000億円から始まった。その後は短国・国債買入を主因に増加し、週末は312兆1,800億円を越えた。無担保コールON物は、決定会合を前の20、21日はビッドが弱く、△0.08~△0.03%台での取引であった。決定会合が明け、週末となる23日は前営業日対比でビッドが厚くなり△0.075~△0.02%台で取引された。ターム物は週初、決定会合の結果待ちで、様子見姿勢の強い立ち上がりとなった。結果公表後はショートタームを中心に散発的な出会いが見られたがレートに大きな変化はなかった。

20、21日に行われた金融政策決定会合では、「総括的な検証」等の内容を踏まえ、金融緩和強化のための新しい枠組みとして「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入することを決定した。主な内容は①イールドカーブ・コントロールと②オーバーシュート型コミットメントである。来週の予定は、黒田日銀総裁の講演・挨拶(26・29日)、CPI、完全失業率等(30日)、海外では、イェレン議長をはじめ、ボードメンバー複数名が講演(28~29日)、米国4-6月期GDP確定値(29日)などが挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.400 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約3,700億円で、期落ち額約5,300億円(金融機関・ABC除く)を下回った。期末の有利子負債削減の動きから発行が伸びず、発行額のうち約3分の1が期内償還物であった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は2兆5,700億円程度となっている。

<TDB>

20日に国庫短期証券3M第635回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3066%(前回債△0.3363%)、平均落札レートは△0.3286%(同△0.3549%)と前回債と比べて利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.40%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った出合は見られなかった。来週29日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCIは週初△0.08~△0.09%の出合いからスタート。日銀金融政策決定会合後も特段レンジに変化はなく、概ね△0.08%台での出合い。週末には短国買入オペが7500億オファーされたが、前日対比同水準を維持し越えた。SCは2年366・367回債、10年341回債が週を通して△0.50%台での出合いとなった。その他5年127・128回債、10年321・327・328・329・330・332・336・340・343回債、20年155・156・157回債、30年49・50・51・52回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。